

中国空軍ニュース

ロシアは、中国製の“瀋陽 SKI 戦闘機”に強い関心を示す

漢和防務評論 20120221

KDR ドバイ特電：

中露間の軍事貿易がエンジンを除きほとんど停滞している状況下、ロシアは、瀋陽航空機会社製造の J-15 型戦闘機（艦載機 SU-33 のコピー）、J-16（戦闘爆撃機 SU-30MK2 のコピー）、J-11BS（SU-27SKK の中国版で複座型）に強い関心を示している。特に、中国国産の“太行エンジン”を搭載したこれらの戦闘機の輸出がロシアの戦闘機市場に衝撃を与える可能性があるからだ。ロシア航空機工業界の権威筋は、ドバイで J-15 及び J-16 型海軍戦闘機の構造を詳細に分析した。結論は、「瀋陽で生産された 2 種類の J-15 型戦闘機のなかで、エアロダイナミックスが変更された機体がある。ロシア製の AL-31F エンジンを採用（KANWA は J-15R と呼称）した第 1 種類の J-15 は、エアロダイナミックスが SU-33 の完全コピーであり如何なる変更も加えていないようだ。国産の“太行エンジン”を搭載（KANWA は J-15C と呼称）した第 2 種類の J-15 は、主翼を改修している。フラップの面積を増すため、伸縮式フラップを採用している」と。

ロシア航空工業界の設計師は、2 種類の J-15 の写真を分析し、「改修の目的は翼面積の増加だ。空母への着陸時に抗力を高め、着陸滑走距離を短縮する。一説によると、“太行エンジン”の最大推力は、13200 KG であり、AL-31F の 12500 KG よりも大きい。したがって航空機の減速性が重要だ」と述べた。

このような再設計のマイナス面は、航空機の構造が複雑になり、J-15C の可動率を下げ、機体の重量を増す。SU-33 は、艦載機としては既に重量が過重であるため、機内燃料の減量、搭載弾薬量の削減で対処するしかないが、中国は、機体に多くの複合材料を使用することによって J-15C の重量を減らし、フラップ増設への補償措置としている模様だ。

ロシア軍用機市場が中国との競争に直面

漢和防務評論 2012021

KDR ドバイ平可夫特電：

2011 年の国際航空機市場において、中国の圧倒的な競争に直面したロシア戦闘機は、国際エアショーから消え去ってしまったようだ。2011 年の大規模エアショーで、ロシア戦闘機はほとんど見る事が出来なかった。これは、過去 15 年

間で稀にみる出来事だ。

一方の中国は、2010 年から、JF-17 国産戦闘機を積極的に売り込んだ。中国国産の J-10 型戦闘機は、売り込みが逐次進行中であり、若干の航空武器売り込みパンフレットには、FC-20 型戦闘機（J-10 の輸出型）と書かれている。

わずか 1 年の間に、JF-17 は、2010 年のファンボローエアショー、2011 年のトルコエアショー、ドバイエアショーに出展され、後 2 者のエアショーでは、飛行展示も行った。2009 年のドバイエアショーでは、L-15 型ジェット練習機の飛行展示とニュース発表を行った。

2011 年のパリエアショーでは、プーチンも来場したが戦闘機の展示はなく、わずか BE-200 型水陸両用機が地上展示を行っただけであった。2010 年のファンボローエアショーではスホーイの SUPERJET-100 型旅客機だけが出展された。ドバイエアショーは、この 2 年間、ロシア製戦闘機の影を見ていない。（ロシアにとって）重要な 2011 年のインドエアショーにおいてさえ、ロシアは如何なる戦闘機も展示しなかった。もとより、当時 MIG-35 は 126 機の戦闘機選定の候補から排除されていたのであるが、その他の欧州の戦闘機や F-18F 戦闘機は出展していた。

現在は正に SU-35 の積極売り込みの時期であるが、この戦闘機はこの 2 年間国際エアショーには顔を出していない。これに反してロシア製 RD-33 型エンジンを搭載した中国の JF-17 は、ドバイとトルコエアショーで毎日飛行展示した。

2010 年以来、ロシアが重要なエアショーに戦闘機を参加させないのは説明できない。財政状況に関して、スホーイの戦闘機輸出業績は極めて良好であり、2010 年からベトナムとインドネシアに若干の SU-30MK2 を輸出、アフリカのウガンダも同戦闘機を獲得した。湾岸国家は、ロシアの伝統的な戦闘機市場ではないが、中国の伝統的な戦闘機市場でもない。したがって中国は、JF-17 をトルコとドバイのエアショーに出展した。

以上